

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

グローバル教養学部では、幅広い教養を身に付け国際社会で活躍する「グローバル人材の育成」を目指し、英語イマージョン教育と少人数双方向教育を推進してきたことは、高く評価されてきた。

2015年度から学生定員を66名から100名に増やしたことを受け、グローバル教養学部は授業科目の増設や新設を伴うカリキュラム改革や学生の募集方法の多様化など、様々な対応策を講じた。その結果、グローバル教養学部の規模が拡大された後も教育の質が適切に順守され、さらに成果を上げ発展を遂げているかどうかについて、今後の検証が求められる。

グローバル教養学部の理念・目的に沿い、高い教育成果を挙げるために、今後も弛まぬ努力を継続されることを期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2015年度に受け入れ人数の大幅な拡大を受けて、リベラルアーツ教育の理念のもと、英語イマージョンと少人数双方向による教育の質を維持・向上させることを目指し、2016年度から新カリキュラムがスタートした。主な変更は以下のとおり。
 ①学生増に合わせて科目数を増やした。②科目群を4つから5つに増やした。③習熟度に応じて英語力を伸ばすため、英語スキル必修科目を1-2年次に導入した。③英語スキル必修科目では、共通シラバスを作成し、教育内容の均一化を目指した。④専門科目の入門科目(100番台レベル)と中級科目(200番台レベル)で選択必修科目を設けることで、学際教育の基盤を固めた。⑤新規ゼミを3つ増設した。なお、増加科目担当講師には、学部が求める専門性と教育力を兼ね備えた教員を原則公募で採用し、新規採用した全ての兼任講師に対し専任教員による授業参観を実施した。これらのカリキュラム改革により、国際社会で必要な教養と学術的知識を英語でより広く深く学べる環境を整備した。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

2015年度の学生定員の34名への拡大を受け、2016年度から新カリキュラムがスタートした。主な変更点は、①科目数の増設、②科目群の4から5への増設、③英語スキル必修科目の1-2年次導入と共通シラバスの作成、④専門科目の入門科目(100番台レベル)と中級科目(200番台レベル)で選択必修科目の設定、⑤新規ゼミの増設である。増設科目には専門性と教育力を兼ね備えた教員を公募で採用し、新規採用した全ての兼任講師に対する相互授業参観を実施している。これらのカリキュラム改革により、リベラルアーツ教育の理念のもと、国際社会で必要な教養と学術的知識を英語でより広く深く学べる環境を整備しつつある。今後は新カリキュラムの成果検証も見据えながら、カリキュラムの運用を進めていただきたい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・質保証委員会（2名および執行部）
- ・質保証委員会（2016年4月13日開催）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部の質保証委員会は、2016年度から、執行部以外の専任教員が2名となり、従来より客観性が担保される構成になった。今後は、学部の自己点検・評価や教授会審議内容などの精査を行うなど、より具体的な活動を期待したい。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に「学士（国際教養学）」の学位を授与する。

- (1) 問題発見・解決能力：日常の具体的な出来事から真の問題点を発見し、それを偏見や先入観にとらわれず整理し、向かうべき方向性を見出す能力。また、固定したものの見方に囚われない、領域横断的な問題分析能力を有すること。
- (2) 学術知識の応用力：地球全体が対処すべき諸問題について、深い教養と最先端の議論に精通し、それらを現実社会に応用できること。
- (3) 異文化・多文化の理解：民族や言語、価値観や社会制度を異にする国家・地域・コミュニティーに関する正確かつリアルタイムの知識。また、それぞれの固有文化の意義を尊重する姿勢があること。
- (4) 英語コミュニケーション能力：相手の論点を的確に理解し、議論に積極的に関わることのできる高度な英語運用力を備えていること。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

高い意識をもってグローバル社会に貢献し、そこで成功するための能力・知識・倫理観を備えた学生を育てるために、リベラルアーツ教育を軸にした下記のようなカリキュラムを編成する。

- (1) 幅広いリベラルアーツ教育：Arts and Literature, Linguistics and Language Acquisition, Culture and Society, International Relations and Governance, Business and Economyの5つの科目群の中から、多様な科目を履修することで、幅広いリベラルアーツの教養を身に付け、問題発見・解決能力と批判的かつ倫理的な判断力を伸ばし、異文化・多文化の尊重を促す。
- (2) 学際教育と専門性：1-2年次に5つの科目群の中から、それぞれ選択必修科目を履修し、学際教育の基礎を作る。2-3年次においても、興味のある分野を中心に、様々な学問分野から総合的に科目を履修し、既存分野の枠組みを超えた学際的な視座を修得する。3-4年次にはゼミ研究を通し、興味のある分野において専門性を伸ばし、基礎知識を特定の問題に適用する力を養う。
- (3) 少人数教育：全ての授業において少人数編成を徹底し、プレゼンテーションやディスカッションなどの双方向型学習を通し、柔軟な思考力と批判的思考力を伸ばす。
- (4) ダイバーシティ教育：多様性について多くの授業で学ぶとともに、多様なバックグラウンドをもつ教員や学生で構成される学部内のコミュニティーに身を置き、実際に多様性を経験することで、異文化・多文化を尊重し、偏見にとらわれることのない、柔軟な態度を身につけ、異なる他者に対する理解を深化させる。
- (5) 英語教育：学術的な論文の読み書きができ、論理的に意見を組み立てられるように、1-2年次に英語スキル科目を履修する。4年間、原則全ての授業を英語で履修することで、高度な英語運用力を身につける。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

- ・履修の手引き
- ・学部パンフレット
- ・学部ホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/gis/ja/index.html>)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・カリキュラムマップ	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>上記3点の適切性については現場に立つ教員や事務担当の声、学生モニター制度や学生へのアンケートを通じた意見聴取および卒業生の進路状況を基に主に執行部、FD委員会、カリキュラム委員会と教授会で検証を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生モニター報告書（第 18 回教授会議事録、資料 8） ・授業相互参観の報告書（2016 年 6 月 22 日及び 2016 年 10 月 26 日開催 FD Workshop） 	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。</p> <p>学生の能力を段階的に伸ばせるよう、1-2 年次には基礎科目と総合科目を設置し、学術的なスキルとともに、リベラルアーツに欠かせない重要科目を 5 つの科目群からそれぞれ 4 単位以上（100 番台、200 番台それぞれ 2 単位以上）履修させている。2-3 年次は学際教育を実現するため、多分野にわたる科目を設置し、学生の興味に応じてこれらを自由に履修できるようにしている。3-4 年次にはゼミを設置し、大学院進学も可能なまでの専門的な知識および研究能力を習得できるようにしている。学生に指針を与えるため履修モデルを作成した。また GIS ガイダンスで学生にカリキュラムマップを配布した（2017 年 4 月 1 日）。研究テーマがゼミの内容と異なる学生に対しては、教員と一対一で論文を執筆する Independent Study and Essay I/II を提供している。</p> <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップ（オリエンテーションで配布） ・シラバス ・履修の手引き ・履修モデル 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～600 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2016 年度からの以下の新カリキュラムを導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 科目群 (Arts, Literature, and Culture; Linguistics and English Education; Society and Identity; International Relations and Economy) を 5 科目群 (Arts and Literature; Linguistics and Language Acquisition; Culture and Society; International Relations and Governance; Business and Economy) に編成しなおし、グローバル教養により相応しいカリキュラムを整えた。全ての科目群で科目数を増やすことで、学際教育と少人数教育の両方を維持している。 ・100 番台・200 番台レベルそれぞれにおいて選択必修科目を設け、各科目群から 2 単位以上履修することを学生に課した。学生は幅広いリベラルアーツの基礎を習得した上で、より専門性の高い上級科目を履修することができる。 ・入学時の学生の英語能力に応じ、英語の必修科目を設定し、かつ、スコアが比較的低い学生にはより多くの必修科目を設け、英語スキル教育にも体系性と順次性をもたせた。また能力別クラス編成の基となる入学時の TOEFL-ITP 欠席者への対応、および TOEFL-ITP スコアと自己認識する英語力に大きな差が生じた学生の対応に公平性を期すため、その手順を定めた。 ・従来通り、全ての科目に 100～400 番台のナンバリングを行っており、200 番台以上の中・上級科目履修に関して、事前の履修が条件となる初級・中級科目がある場合は、シラバスに prerequisites を明記している。 ・中・上級科目、ゼミにおいて、厳密に prerequisites として要求しない科目でも、履修しておくことが望ましい場合は、そのようにシラバスに明記している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップ ・シラバス ・履修の手引き 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2016年度第1回教授会議事録	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>本学部のカリキュラム全体が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うことを目的としている。これまでも多様な科目を柔軟に履修することを学生に促していたが、1-2年次から特定の分野に偏った履修をする学生もいたことから、新カリキュラムでは100、200番台に選択必修科目を設け、5科目群からそれぞれのレベルで2単位以上を履修することを課した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3-4年次に3つのゼミを (Culture and Globalization; Global Strategic Management; Entrepreneurship and Innovation) 新規開講したことにより、ゼミの総数は12となった。ゼミでは専門性の高い教育・研究を行い、学術能力を高めるだけでなく、様々な共同作業を通して豊かな人間性の涵養も期待される。 ・学部独自の留学制度 Overseas Academic Study Program (OAS) も国際社会で活躍するために不可欠な教養と人間性の育成に貢献している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップ ・シラバス ・履修の手引き ・OASパンフレット 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな英語力の向上に関しては、カリキュラム改革を行い、初年次教育として Reading, Writing, Debate and Discussion の三技能を伸ばせるようにした。入学時の TOEFL-ITP スコアに応じ英語スキル科目の履修科目数を設定し、スコアが低めの学生にはより多くの適切な科目 (最大16単位) を履修させている。これにより、遅くとも2年次の2学期目にはアカデミックな論文を読み書きし、発表できるまで英語力を高めることを目標としている。英語スキル科目には共通のシラバスと教科書を設定し、担当教員によりレベルや内容に差が生じないようにした。 ・100番台の専門入門科目に関しては、選択必修科目を設けることで、リベラルアーツ教育に特に重要な科目を5科目群それぞれから2単位ずつ履修させている。また、多くの科目を春学期と秋学期の双方に設置することで、履修の機会を増やしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修の手引き ・シラバス 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部のカリキュラムと学部独自の留学制度 (Overseas Academic Study Program) において国際性を涵養している。専任教員2名による OAS Program 委員会と英語母語話者1名を含む2名の嘱託職員が留学ガイダンスやサポートを行っている。また、100番台に OAS Preparation という科目を設定し、留学先の教育制度や海外生活の心構えなどについて学ぶ機会を与えている。 ・派遣留学制度や国際ボランティアにも積極的に参加するよう促している。2016年からは国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修も単位認定している。 ・多様な国際的背景を持つ教員を多数擁し、また UK: Society and People など国際性と異文化理解を涵養する諸科目を配置している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修の手引き ・シラバス ・OASパンフレット 	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- ・キャリア教育に関しては、新たに設けた Business and Economy の科目群の中で、関連科目として International Business and Employability を設置している他、従来通り、総合科目としても、Employability Skills I/II、Introduction to Career Design I/II などの科目を設置している。
- ・学部にキャリア支援委員会を設け、キャリアセンターと連携を取りながら学生のサポートを行うほか、キャリアセンターの職員によるゼミ出張ガイダンスも行っている。
 - ・2015 年度より、卒業生を Homecoming に招いている (2016 年は 10 月 2 日)。在学生もこれに参加することで、OB・OG とのネットワークを作る機会を提供している。また、卒業生による講演会も開催し、GIS ならではの就職の強みや課題などについて在学生と話し合う機会を設けている。
- ・学部企画として、就職講演会を 2 回行った。「法政大学 GIS × PwC 会社説明会」(12/9 開催、参加者 26 名)、および GIS とグローバル教育センター共催による国際キャリア支援セミナー(河本孝志氏による講演会)「卒業生が語るグローバルキャリアとは? 外務省、コンサル、国連の先に描くキャリア」(12/14 開催、参加者 48 名)

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・履修の手引き
- ・シラバス
- ・卒業生による講演会「卒業生が語るグローバルキャリアとは?」リーフレット
- ・就職講演会「法政大学 GIS × PwC 会社説明会」リーフレット

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

① 学生の履修指導を適切に行っていますか。 S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学部ガイダンス (2016 年 4 月 4 日実施)
- ・教員による新入生オリエンテーション (2016 年 4 月 1 日実施)
- ・教員による個別相談 (2016 年 4 月 5 日実施)
- ・自己学習支援委員による個別面談 (成績の低下や獲得単位数の少ない者に対して毎学期実施。2016 年度春は 6 月 6 日、9 日、秋は 11 月 1 日、17 日に実施した)。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・個別相談報告書 (第 5 回教授会議事録、回覧資料 6 ; 第 12 回教授会議事録、資料 2)

② 学生の学習指導を適切に行っていますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

少人数双方教育の特徴を生かし、きめ細やかな学習指導を行っている。授業の前後やオフィスアワーで学生の質問や相談に応じるほか、必要に応じてアポイントメントによる面談も行っている。成績不振や単位数の少ない学生には自己学習支援委員が面談し、支援やアドバイスをを行っている。留学や教学のサポートは教員だけでなく、英語母語話者 1 名を含む 2 名の嘱託職員も対応している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・個別相談報告書 (第 5 回教授会議事録、回覧資料 6 ; 第 12 回教授会議事録、資料 2)
- ・OAS パンフレット
- ・シラバス

③ 学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。 S A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

少人数双方教育の特徴を生かし、多くの授業において、英語によるレポート、ディスカッション、プレゼンテーション、グループプロジェクトなどを必須としている。これらに参加するには関連資料を読む、資料を用意する、グループによる準備作業など授業時間外での学習が不可欠である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバス

④ 1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。 はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】 ※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

年間履修上限単位数は (2012 年度以降の入学生から) 49 単位まで。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

以下の条件を満たし教授会の推薦を受けたものは次のように上限が緩和される。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>(1) 2年次以上で、前年度までの累積 GPA が 3.5 以上の場合、年間履修登録単位数が 60 単位まで認められる。</p> <p>(2) 3年次以上で、前年度の年間 GPA 上位者は、通常公開されていない他学部科目を年間 4 単位かつ 8 単位以内で履修できる。(2) の制度の対象者が (1) の制度の対象者と重複する場合は、上記の年間履修登録単位数の範囲内で、年間 4 科目かつ 8 単位以内の他学部科目の履修が認められる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修の手引き 	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての授業でディスカッション、プレゼンテーション、グループプロジェクト、校外学習(field study)などのアクティブラーニングを取り入れている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス 	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>GIS では少人数双方向教育を重視しており、一部の例外を除いて 30 名を超えないようにしている。100 番台から 300 番台における一般科目の平均受講者数は約 26 名である。英語スキル科目とゼミ の平均受講者数はさらに少ない。2015 年度からの受け入れ学生数の増加に対応するため、毎年 15.5 コマ（通年換算）を増やしてきており、2018 年度（4 年目）までに総 62 コマの増加を予定している。また、兼任講師のため懇談会を開き、様々な事項に加え、適正学生数、セクションについて文書を配布し説明をした（2017 年 3 月 22 日）。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Information for instructors 	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度のシラバスを兼任講師に依頼する時点で、書き方に関する注意点を英語で記した手引きを配布した。 ・また、専任教員のコーディネーターを割り当て、各人がウェブ上にアップロードする前に、内容や記述方法などの確認や質問ができるようにした。全シラバスチェックは、英語表現の確認が終了次第、執行部が行うこととした。 ・必要な場合、形式、内容及び英文表現について講師への修整依頼と再チェックを行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師への依頼文 ・シラバスチェックのエクセルシート 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価アンケート ・学生モニター制度 ・専任教員による授業相互参観 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観の報告書（2016 年 6 月 22 日及び 2016 年 10 月 26 日開催 FD Workshop） ・学生モニター報告書（第 18 回教授会議事録、資料 8） 	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学部の成績分布表 ・成績調査申請制度 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回教授会議事録、回覧資料 9、第 9 回教授会議事録、回覧資料 14 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>OAS や派遣留学制度を利用して海外大学で取得した単位は OAS 委員会および執行部で厳正に審査した上で、教授会の了承を経て単位認定を行っている。取得単位はレベルに応じて、Study Abroad: Pre-Academic Course, Study Abroad: Academic Courses 1-3 に振り替えている。入学前の単位認定については、適時、教授会にて審査している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OAS 単位認定ガイドライン (2015 年度第 9 回教授会で承認 議事録) ・ 第 7 回教授会議事録、回覧資料 11 (派遣留学単位認定) ・ 第 15 回教授会議事録、資料 14 ; 第 16 回教授会議事録 (OAS 単位認定) ・ 他大学で履修した単位認定を申請するための様式 (入学前既修得単位認定希望願) 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスチェックの際に成績評価の基準と内訳について確認している。成績調査の申請があった場合は、担当教員にエビデンスを提出してもらっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス ・ シラバスチェックの基準 	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアセンターが管理している卒業生の進路に関するデータを申請し卒業生の就職・進学状況を把握している。 ・ Homecoming で卒業生にアンケートを行い、転職や大学院進学などの情報を集め、できる限り最新データの把握に努めている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生データ提供申請書 	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 執行部とカリキュラム委員会で検証した上で、教授会で全教員に周知している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進級・卒業判定名簿 (第 16 回教授会議事録、回覧資料 11) 	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例: アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>カリキュラム・FD 委員会では定期的に全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA の確認を行っている。また、TOEFL-ITP の複数回受験を義務化し、スコアを用いて英語力の向上を測定し学習成果の把握・評価に努めている。大学評価室卒業生アンケートも活用している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学生の履修登録状況、履修単位数、GPA の確認 (カリキュラム・FD 委員会) ・ 卒業生データ提供申請書・TOEFL-ITP Level 1 (1 年目は 4 月と 1 月の二回、2 年目は 4 月か 1 月の一回、および留学帰国直後) 	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例: 専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年の GPA、履修単位数、進級・留級の状態等の一覧表を作成し、教授会で共有している。 ・ 英語力に関しては、学部実施の TOEFL-ITP をはじめ、学生が各自任意で受験する TOEFL-iBT や TOEIC の結果も報告させ、データ化している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・進級・卒業判定名簿（第16回教授会議事録、回覧資料11）	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・全学生の履修登録状況、履修単位数、GPAの確認（カリキュラム委員会） ・卒業生アンケート調査（教授会で共有） ・卒業後の進路調査 ・TOEFL-ITP（1年目は4月と1月の二回、2年目は4月か1月の一回、および留学帰国直後）	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・進級・卒業判定名簿（第19回教授会議事録、回覧資料11）・TOEFL-ITPスコア（必修科目プレースメント時カリキュラム委員が閲覧）	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・学部長が全てのアンケートに目を通し、問題のある教員に対して面談を通し、事情説明や改善を求めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップの作成と配布。 ・新カリキュラムの導入。 ・科目群 Business and Economics を新設し、科目群を4から5に増やした。 ・100番台200番台レベルに選択必修科目を設けた。 ・英語の能力別必修科目を設けた。 ・3つのゼミを新たに開講した。 ・国際ボランティア、国際インターンシップ、短期語学研修を単位認定した。 ・能力別クラス編成の基となる入学時のTOEFL-ITP欠席者への対応、およびTOEFL-ITPスコアと自己認識する英語力に大きな差が生じた学生の対応に公平性を期すため、その手順を定めた。 ・2017年度のシラバスを兼任講師に依頼する時点で、執筆の手引き（英語）を配布した。また各兼任講師に専任教員のコーディネーターを割り当てた。全シラバスチェックは執行部が行うこととした。 	2.3.① 2.3.② 2.3.②、2.3.④ 2.3.②、2.3.④ 2.3.② 2.3.④ 2.3.⑤ 2.2.② 2.4.⑦

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・学生定員増4年目には一定のコマ増が予定されており、2017年度中に200番台300番台レベルを中心として増コマ分の科目名を決定する必要がある。 ・学部の教育方針に合う適切な採用人事を行い、2018年度に1授業あたりの学生数が過剰にならないようにする。 ・学習成果の学部全体への可視化に関して引き続き議論が必要である。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること（2.1～2.2）

<p>グローバル教養学部では、学士（国際教養学）の学位を授与する水準を次の4点にわたって明示している。すなわち、①問題発見・解決能力、②学術知識の応用力、③異文化・他文化理解、④英語コミュニケーション能力である。そして、教養ということでは、地域と文化の枠に囚われないアプローチによる研究教育と、既存の学問体系の枠に囚われない研究教育とを学部の教育目標としている。またその教育目標を実現するための幅広く深い教養および総合的判断力を養う教育課</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

程が編成され、5本の柱から成る順次性・体系性が考慮された教育課程の編成・実施方針が周知・公表されている。すなわち、①5科目群から成るリベラルアーツ教育、②学際教育と専門性、③少人数教育、④ダイバーシティ教育、⑤英語教育である。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性は、教員、事務担当、学生モニター、学生アンケート、各種委員会などの多様な経路で検証されており、概ね適切である。

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

グローバル教養学部では、1-2年次、2-3年次、3-4年次のそれぞれの段階に応じた教育課程が用意され、履修モデルやカリキュラムマップにより、カリキュラムの順次性・体系性に配慮されている。さらに、科目群をそれぞれ増やし、能力別クラス編成の公平性のための工夫も行われている。また、開講ゼミ数を増やすとともに、学部独自の留学制度が提供されているが、これらは幅広く深い教養および豊かな人間性の涵養に寄与している。

初年次教育としては、英語の三技能(Reading, Writing, Debate and Discussion)を伸ばすカリキュラム改革を行い、適切な科目の履修を促している。国際性の涵養という点に関しては、派遣留学制度や国際ボランティアなどの参加を積極的に促すとともに、2016年度から国際ボランティアおよび国際インターンシップの単位認定が開始されたことは評価できる取り組みである。

キャリア教育については、従来のキャリア関連科目以外に新たな科目の設置も行うとともにキャリア支援委員会による学生サポートも行われており、評価できる。さらに、学部とグローバル教育センターの共催による国際キャリア支援セミナー等の開催は、学部の特長を活かした取り組みとして評価できる。

③教育方法に関すること (2.4)

グローバル教養学部では、新入生と在学生に対して、学部ガイダンス、新入生オリエンテーション、教員との個別相談、自己学習支援委員による個別面談の4つの履修指導のための取り組みがなされ、適切である。学習指導については、少人数双方向教育を生かし、授業時、面談時、留学サポート時に行われている。また、多様な参加型授業形態により、予習などの準備が必要となるため、授業時間外の学習時間が確保されている。年間の履修単位上限は適切に設定されている。

教育上の目的を達成するための効果的な授業形態の導入に関しては、少人数教育を生かし、ほぼすべての授業がアクティブラーニング形式で行われていることは評価できる。1授業あたりの学生数は適切に設定されている。

シラバスの作成にあたっては、兼任講師への英語の手引きの配布や専任教員のコーディネーターの配置などに取り組みとともに、執行部による全シラバスのチェックにより適切な検証が行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5~2.7)

グローバル教養学部の成績評価と単位認定の適切性は、年度ごとのGPCA集計表により、各学部の学年別、受講者別、科目種類別の評価分布等と比較することにより、適切に確認されている。他大学等における既修得単位の認定はOAS委員会および執行部でレベルに応じて実施されており適切である。厳格な成績評価はシラバスチェックなどを通じて行われている。学生の就職・進学状況は、キャリアセンターの管理データや卒業生アンケートなどによって把握されており、概ね適切である。

成績分布や進級などの状況は、執行部とカリキュラム委員会が検証・把握されている。また学位授与方針に明示した学生の学習成果は履修登録状況、履修単位、GPAをはじめ、TOEFL-ITPのスコアなどにより把握・評価されている。学習成果の可視化については、GPA等の一覧表の作成や各種英語テスト結果のデータ化により可視化され、教授会で共有されている。またそれらの結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みが行われており、適切であると評価できる。今後は、新しいカリキュラムが学習成果にどのように反映されているかの検証についても検討を期待したい。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【学生の受け入れ方針】

多様なバックグラウンドをもった学生を受け入れるべく、多様な入試制度によって受験生を多面的に評価する。以下の能力・資質によって選抜する。

- (1) 本学部のカリキュラムを十分に消化し得るだけの基本的な学力を有すること。
 - (2) 偏った見方に固執せず、柔軟な発想と論理的思考力を有すること。
 - (3) 学部の理念と教育目標を十分に理解していること。
 - (4) 継続的かつ能動的に勉学に励む意欲があり、そのような習慣を身につけていること。
 - (5) 世界基準での英語の授業についていけるだけの十分な英語力を有すること。
- 自己推薦特別入試および推薦入試では、上記のすべてを評価する（下記の表を参照）。具体的には調査書にて上記(1)と(4)を、推薦状（自己推薦入試・指定校推薦入試）にて(2)と(4)を、志望理由書にて上記の(2)、(3)、(4)を、TOEFLやIELTSを始めとする外部英語試験にて上記の(5)を、筆記試験（自己推薦入試）にて(2)と(5)を、面接にて(2)～(5)を評価する。
 - 一般入試では、主に(1)、(4)、(5)を評価する。
 - 帰国生や留学生のみを対象とする特別入試は行わないが、海外の教育機関や国内のインターナショナル・スクールなどの出身者も積極的に受け入れるべく、教育制度・課程の違いについても十分に配慮し、入学時期も4月と9月の二回、設けている。

	自己推薦特別入試および推薦入試						一般入試
	調査書	推薦状	志望理由書	外部英語試験 (IB)	筆記試験	面接	
(1) 基本的な学力	○				○		○
(2) 柔軟な発想と論理的思考力		○	○			○	○
(3) 学部の教育目標の理解			○			○	
(4) 学習意欲	○	○	○			○	○
(5) 英語力				○	○	○	○

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 はい いいえ

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。
 安定した数の秋入学者を受け入れる目的で、自己推薦入試の国外選考に関して、2018年度入試からは English A: Literature等を履修してIB Diplomaを取得した者には、TOEFLやIELTSを免除することとした。また秋入学者数が全体の入学定員の中に組み込まれたことにより、1年間の受け入れ学生数がより安定し適正数に近づき、結果的に教育にもよい影響を及ぼすと予想される。国内のインターナショナル・スクールに学部パンフレットを送付し、また、インターナショナル・スクール主催のCollege Fairでも学生や保護者に対し説明を行った。さらに、近郊の高校へは複数回訪問し、説明会を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度第13回教授会議事録
- ・2016年度各種委員表

定員充足率 (2012～2016年度) (各年度5月1日現在)

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	50名	66名	66名	100名	100名	/
入学者数*	47名	67名	71名	96名	125名	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

入学定員充足率	0.94	1.02	1.08	0.96	1.25	1.05
収容定員	200名	216名	232名	282名	332名	
在籍学生数	228名	244名	248名	293名	357名	
収容定員充足率	1.14	1.13	1.07	1.04	1.08	1.09

* 入学者数は秋入学者を含む。

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ① 学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ② 学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・ 執行部が学生の入学年別・入試経路別の GPA と TOEFL スコアを把握している。
- ・ 結果は教授会の議論の中で検証され、入試改革、カリキュラム改革等に反映されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ TOEFL-ITP スコア (必修科目プレースメント時カリキュラム委員が閲覧)

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 秋入学自己推薦入試の国外選考に関して、2018年度入試からは English A: Literature 等を履修して IB Diploma を取得した者には、TOEFL や IELTS を免除することとした。	3.2. ①
・ 秋入学者数が全体の入学定員の中に組み込まれた。	3.2. ①

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・ 特になし。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部では、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針が適切に設定され、自己推薦入試、推薦入試、一般入試の評価の視点も明確にされている。定員の超過・未充足に対して

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

は、2016年度は入学定員充足率が1.25と超過傾向にあるが、英語力評価方法の見直し、秋入学者の定員への組み入れなどで対応している。学生募集については、インターナショナルスクールへの広報を強化したり、入学者選抜の結果についてもGPAとTOEFLを通じて定期的に検証が行われ、その結果をもとに入試改革やカリキュラム改革が行われており適切に対応がなされている。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】 (2011年度自己点検・評価報告書より)

学部の理念・目標の理解に基づいて教育と研究に専心し、高い倫理観と愛情を持って学生を育成し、大学の発展に貢献する教員を求める。学生は、本学部のディプロマ・ポリシーに従い、グローバル研究の理念のもとに、問題を発見し解決する能力、世界基準の議論に精通し意見を発信する能力、異文化・多文化に対する深い理解、そして英語の高いコミュニケーション能力を修得し、「学士(国際教養学)」の学位を授与される。したがって編制方針に添い具体的に教員に期待されるものは、1. 英語を教授言語とすること 2. 各自の専門研究の深化とともに、各領域を超えて学際的視野で、客観的かつ柔軟な発想で研究対象を捉え学生に教えること 3. 少人数編成のクラスでの教育、学生とのコミュニケーションに対応できることである。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・新規教員採用募集要項および昇格に関する規定

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部3名(学部長1名、教授会主任1名、教授会副主任1名)
- ・カリキュラム&FD委員会(カリキュラム委員長1名、執行部3名、その他専任教員3名)
- ・質保証委員会(委員長1名、その他専任教員1名)
- ・必修英語科目連絡委員(1名):必修英語科目の総括、非常勤講師との定期的な連絡及びサポートを行う。
- ・自己学習支援委員(2名):GPAや取得単位数が極端に低い学生との面談・サポートを行う。
- ・Overseas Academic Study Program委員会(2名):学部内の留学制度に関する支援を行う。
- ・教授会(原則として月2回)
- ・FDワークショップ:2016年度は春学期と秋学期にそれぞれ1回ずつ実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度GIS各種委員表

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

当学部のリベラルアーツ教育に相応しい教員組織を備えている。5つの科目群にそれぞれ2~3名の専任教員を配置している。2016年度に国際公募により助教1名を採用した(2017年度4月1日採用)。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学学術研究データベース(教員紹介)

・学部パンフレット

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

当学部には大学院が設置されていないが、教員組織は国内外の大学院進学を希望する学生に対応できるように編成されており、すでに実績が出ている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学術研究データベース（教員紹介）
- ・学部パンフレット

2016年度専任教員数一覧

(2016年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
GIS	7	6	0	2	15	10	5

専任教員1人あたりの学生数（2016年5月1日現在）：23.8人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

40～50代の中堅層がやや少なく見えるものの、40歳前後の教員が複数名いるため、近年中にはより均等な配分になると考えられる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

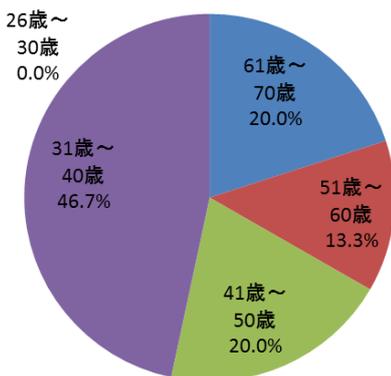
特になし

年齢構成一覧

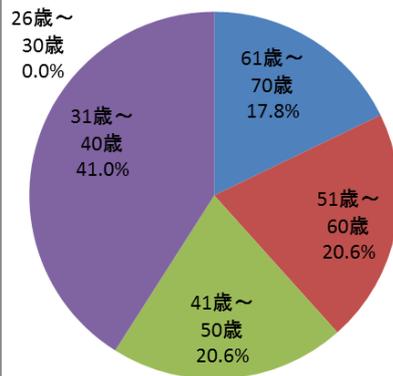
(2016年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2016	0人 0.0%	7人 46.7%	3人 20.0%	2人 13.3%	3人 20.0%

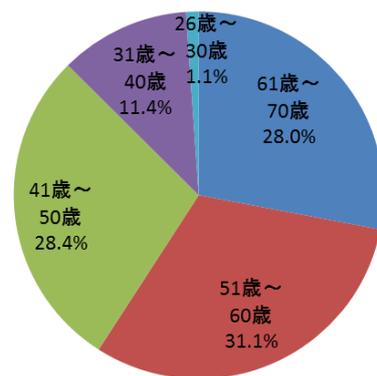
年齢構成比
(2016年度GIS)



年齢構成比
(GIS過去5年平均)



年齢構成比
(2016年度全学部平均)



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・新規教員採用募集要項
- ・グローバル教養学部教員昇格に関する内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・募集採用は原則国際公募である。人事採用の手続きは、学部長の発議→人事委員会→候補者の選定→資格審査→教授会での投票、の手續きを経て行われている。
- ・兼任教員も原則公募で行っている。手続きは、カリキュラム委員会が科目を決定し、候補者の選定を行い、教授会で承認を得る。
- ・昇格は、学部長の発議→人事委員会による資格審査→人事委員会の推薦→教授会での承認、の手續きを経て行われている。

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・カリキュラム・FD委員会

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・FDワークショップ：春学期と秋学期に各1回ずつ、教授法に関するFDワークショップを開催した(6/8 Imai 助教 “The Importance of Fieldwork and How to Prepare Students” および 11/30 Porteux 助教 “Faculty Development Day: Pushing the Traditional Classroom Approach”)。助教を含むすべての専任教員が参加し、活発な議論を行った。秋学期には、その他にも複数回、FDワークショップを開催し、授業相互参観の報告を行った。
- ・執行部及び各分野の専任教員が春学期（10科目）と秋学期（15科目）に授業相互参観を行い、担当教員にフィードバックした。また、春学期は教授会にて、秋学期はFDワークショップにて、参観の報告をした。
- ・英語スキル科目の担当教員懇談会にて、専任教員および非常勤教員を交えて教育方法に関する意見交換を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FDワークショップ配布資料
- ・授業相互参観の報告書（2016年6月22日及び2016年10月26日開催FD Workshop）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・国際公募により助教1名を採用した。	4.2.①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・適切な教員組織を維持するため採用人事を行う必要がある。

【この基準の大学評価】

グローバル教養学部の採用・昇格に関する規定において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等が明らかにされている。組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在が各委員会ごとに明確にされており、概ね適切に運営がなされている。

リベラル・アーツ教育に相応しい教員を配置するため、5科目群にそれぞれ2～3名の専任教員を配置している。また学部には大学院は設置されていないが、教員組織は国内外の大学院への進学を希望する学生に対応できる体制が整えられており、評価できる。教員の年齢構成については、特定の範囲の年齢に著しく偏らないように40歳前後の教員の拡充が見られる。

教員の募集・任免・昇格に関しては、採用募集要項や昇格内規が整備され、執行部、人事委員会、カリキュラム委員会、教授会を通じて適切に運用されている。教員の募集は原則国際公募により行われ、採用の実績があることは評価できる。学部内のFD活動はFDワークショップ、授業相互参観を通じて適切に行なわれている。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・執行部が事務からの提供データ（履修登録の一覧表）をもとに把握している。
- ・休・退学者に関しては教授会を通して全専任教員で情報を共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、2回、3回、4回、8回、9回、10回、11回、16回、17回、18回教授会議事録 ・進級・卒業判定名簿（第19回教授会議事録、回覧資料11） 	
②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。</p> <p>英語能力クラスでは習熟度に応じたクラス編成をしている。学生の学習支援のためにオフィスアワーを設ける一方、少人数クラスの利点を生かし個別学生の相談に応じアドバイスを与えるようにしている。資料室では英語母語話者1名を含む2名の嘱託職員が、レポートの英文チェックや留学相談等さまざまな就学支援を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス 	
③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己学習支援委員会が該当する学生に対し、個別面談を行っている。面談の結果は教授会で共有している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談報告書（第5回教授会議事録、回覧資料6；第12回教授会議事録、資料2） 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>外国人留学生に特化した支援は行っていないが、履修登録の相談や教科に関する相談には適切に対応している。教員、事務、資料室すべてにおいて対応可能である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>グローバル教養学部では卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は、事務提供データなどにより教授会を通して把握・共有されている。修学支援の取り組みについては、習熟度別のクラス編成、オフィスアワー、レポート英文チェックや留学相談を通じて行われている。成績が不振な学生に対しては、自己学習支援委員会が個別面談を行い、結果は教授会で共有されている。外国人留学生に特化した支援は行われていないが、学部の性格上、教員、事務、資料室のすべてで対応が可能となっており、適切に支援が行われている。</p>
--

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中にSGU 枠の新たな助教の採用を行う。適任者を選抜できるよう、早めに人事委員会を立ち上げ、議論を始める。 ・授業相互参観は、専任教員全員が参観可能であるが、実際は執行部が行っている。カリキュラム委員会などの関連のある委員にも積極的に参観を促し、参観する側・される側の双方が学べるシステムの導入を検討している。 ・学部のFDセミナーは春学期と秋学期の計2回を行うことを検討している。
年度末	教授会執行部に
	・助教採用：SGU 枠の助教の採用に向け、6月に人事委員会を立ち上げ、7-9月に公募

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

報告	よる点検・評価	<p>(Comparative Literature/Modern Japanese Literature または Political Science) を行い、書類選考を合格した2名に対して面接を行った。しかし、教授会にて適任者として認められなかったため、人事委員会を解散し、10月に再度、人事委員会を発足させた。11月に新たに公募 (Political Science または Art) を行い、書類選考を合格した3名のうち2名(1名は面接を辞退)に対し面接を行った。12月21日の臨時教授会にて、そのうちの1名を採用することを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観：執行部及び各分野の専任教員が春学期(10科目)と秋学期(15科目)に授業参観を行い、担当教員にフィードバックした。また、春学期は教授会にて、秋学期はFDワークショップにて、参観の報告をした。 ・FDワークショップ：春学期と秋学期に各1回ずつ、教授法に関するFDワークショップを開催した(6/8 Imai 先生担当 “The Importance of Fieldwork and How to Prepare Students”; 11/30 Porteux 先生担当 “Faculty Development Day: Pushing the Traditional Classroom Approach”)。助教を含むすべての専任教員が参加し、活発な議論を行った。秋学期には、その他にも複数回、FDワークショップを開催し、授業相互参観の報告を行った。
	質保証委員会による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各大学でグローバル化対応が進み、英語でコンテンツ科目の授業を行える40歳以下の人材確保は難しくなるなかで、年度内に二度、人事委員会を立ち上げて国際公募を実施し、助教(SGU 枠)を採用したことは評価できる。その際、現行及び将来におけるカリキュラムの更なる充実の必要性を勘案し募集科目を変更したことが採用につながった。 ・教員数が限られるが、教育の質的向上を目的として、春学期と、秋学期に授業相互参観を計25科目で実施し、教授会とFDワークショップで参観の報告をし、担当教員にフィードバックをしたことは評価できる。 ・FDワークショップを2度実施し教員間で議論をし、教授法に新たな提言があったことは評価できる。(資料参照)
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度に実施した卒業生による講演会では、参加者が少なかった。定期的なイベントとして学生に周知することや、全学年を招待するなどの対策を検討している。 ・入学時のTOEFL-IPTスコアによってクラス編成を行っているが、学生が試験当日に病気などの理由で欠席してしまった場合や、実力とスコアに大きな乖離が見られた場合の対策を検討する必要がある。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度は、学部企画として、就職講演会を2回行った。PwC説明会(12/9開催、参加者26名)、およびGISとグローバル教育センター共催による国際キャリア支援セミナー(河本孝志氏による講演会「卒業生が語るグローバルキャリアとは?外務省、コンサル、国連の先に描くキャリア」12/14開催、参加者48名)。 ・TOEFL-IPTの試験当日に欠席してしまった学生に対しては、外部英語試験のスコアなどを参照にクラス分けを行うことをカリキュラム委員会で議論の上、決定していた。実力と英語スコアに大きな乖離がみられた学生がクラス変更を希望する場合は、まず変更を希望する理由を記した書類(Petition for Consideration of Academic Skills Courses Reassignment)を学部事務課に提出させ、授業担当の教員、学生との面談、英語能力を証明するスコアの提出などを経て、適時、教授会が決定することとした。2016年度は4名からクラス変更の相談があり、そのうち3名は現状のクラスに留まり、1名は本人の希望どおり、上級クラスへの変更を認めた(2016年度第1回教授会議事録、第1回カリキュラム委員会メモ)。
	質保証委員会による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学部単独とグローバル教育センター共催で2度就職講演会を実施し、計70名以上の学生を集めたことは、GIS一学年の定員から見ると評価できる。また、学生の将来のキャリア形成に寄与したと考えられる。 ・TOEFL-IPTの試験に欠席した学生に対する対応は適切である。また能力別クラス制において、クラス変更を希望する学生の手続きを明確にした制度は必要なものであり、現実の対応も丁寧で適切である。
評価基準		教育方法

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

現状の課題・今後の対応等		カリキュラム委員会による全シラバスチェックは、定員増による新任兼任講師数の急増があったため、確認すべきポイントの共有に不十分な点があり混乱が生じた。兼任教員にはシラバスの依頼をする時点で、シラバスの書き方に関する詳細な手引きを配布し、また、専任教員をコーディネーターとして指名することで、シラバスを提出する前の早い段階で効率的に修正できるように改善する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	2017年度のシラバスを兼任講師に依頼する時点で、書き方に関する注意点を英語で記した手引きを配布した。また、専任教員のコーディネーターを割り当て、各人がウェブ上にアップロードする前に、内容や記述方法などの確認や質問ができるようにした。全シラバスチェックは、英語の確認が終了次第、執行部が行うこととした。
	質保証委員会による点検・評価	兼任講師のシラバス執筆手引き作成と、コーディネーターの割り当て、質問の受け付け、英語チェック、最終的な執行部による確認等により、シラバスの質が向上するが、それに加え、兼任講師への学部の基本的教育方針、教育方法の周知の観点からも有意義であり、評価できる。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		卒業研究や卒業制作を課しているゼミがほとんどであるが、これらの成果はゼミの中でしか共有されていない。学習成果の可視化をすすめる上で、これらをまず学部内で公表するための方策を検討する必要がある。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	議論の結果、分野によって論文の内容が多岐にわたるため、合同での研究発表という形態はふさわしくないとの結論にいたった。しかし、学習成果の可視化に向けて、引き続き方法を検討していく必要があるだろう。
	質保証委員会による点検・評価	学習成果の学部全体への可視化に関して、引き続き議論が必要である。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> 安定した数の秋入学者を受け入れられるよう、海外指定校推薦入試や、国際バカロレア取得者にはTOEFLを免除するなどの対策を検討する必要がある。 文科省および法政大学のグローバル化の方針に添い、秋入学者の入学定員数を計算に入れた上で、春入学者の数を安定的に決定していく必要がある。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 秋入学自己推薦入試の国外選考に関して、2017年度入試からはIB Diploma English A等を取得した者には、TOEFLやIELTSを免除することとした（2016年度第13回教授会にて承認）。海外指定校については、国内のインターナショナルスクールも含め、検討を続けているが、2017年度に新たに追加された高校はない。 秋入学者の入学定員が充足できる見込みが立ったため、春入学の合格者を決定する際に考慮することとした。
	質保証委員会による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> 秋入学自己推薦入試（国外選考）において、IB Diploma 得得見込者で、English A: Literature あるいは English A: Language and Literature を履修している者には、TOEFLやIELTSを免除したことは評価できる。両科目履修のためには高い英語力が必要であり、GIS入学に相応しい英語力の証明となる。 秋入学入学者数を全体の入学定員の中に組み込むことにより、1年間の受け入れ学生数がより安定し適正数に近づくことが予想され、結果的に教育にもよい影響を及ぼすであろう。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

助教採用、授業相互参観、英語力の実力と TOEFL-ITP スコアとの乖離、シラバスチェック方式改善、卒論研究や卒業制作、秋入学者数の安定化とそれに関連した春入学者数安定化などの課題が詳しく明確化されている。その上で、それぞれについて入念な検討がなされている。そして、今後の検討事項も明確にされており、評価できる。

【大学評価総評】

今後も少人数教育の強みを生かし、学部の理念・目的に沿って、高い教育成果があげられることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。